

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査

<国語>

平均正答率は大阪府平均に対して4ポイント、全国平均に対して1.1ポイント上回った。また、「学習指導要領の内容」の項目「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現等」のそれぞれの項目ですべて大阪府平均を上回る結果となった。その中でも「B 書くこと」が大阪府平均を6.1ポイント上回り、これまでの授業における授業での取り組みやテストでの記述・作文問題を出題してきた取り組み成果が表れている。一方で「A 話すこと・聞くこと」において大阪府平均を上回るものの、全国平均は下回る結果となった。

<数学>

平均正答率は大阪府平均に対して4ポイント、全国平均に対して2ポイント上回った。特に領域別で見ると「数と式」については、大阪府平均を7.8ポイント上回り、「データの活用」については、大阪府平均を6.6ポイント上回った。1、2年生のときに毎授業で粘り強く計算問題に取り組んだ成果やICT機器を利用した授業実践の成果が表れていると考える。一方で、「関数」については、平均正答率は大阪府平均に対して0.2ポイント、全国平均に対して2.2ポイント下回る結果となった。

<英語>

平均正答率は大阪府平均に対して0.4ポイント、全国平均に対しても0.4ポイント上回った。観点別では、「聞くこと」に関して、全国平均とは差がなかったが、大阪府平均と比べては0.1ポイント下回った。「読むこと・書くこと」に関しては、大阪府平均と全国平均ともに0.4ポイント上回った。日々の授業の中で取り組んでいる英作文の練習や読解練習が結果につながったと考えられる。

今後に向けて

<国語>

日々の授業の中で、話し合いの活動を今までよりも増やしたり、定期的に聞き取りテスト等を行い「話すこと・聞くこと」の観点の問題への対策を行っていききたい。

<数学>

プリント学習を継続して取り組み、基礎学力を定着させていく。また、日頃の授業において、「関数」の領域において苦手意識があるようなので、その領域の基礎・基本の問題から徹底して指導できるように、3学期には復習する時間を多く取り入れていきたい。

<英語>

「聞くこと」に関して苦手意識を持つ生徒が一定数いるため、簡単に短文の聞き取り練習を継続しておこなう。一方で、「書くこと」において自分の意見を英語で表現したり、英作文を書くための語彙や表現は定着しているので、さらにまとまりのある文を書くことができるように、練習していきたい。